

関係人口という提案

『関係人口をつくる

— 定住でも交流でもない

ローカルイノベーション—』



講師 ローカルジャーナリスト
田中 輝美 氏

プロフィール

ローカルジャーナリスト。島根県浜田市出身。大阪大学文学部卒業後、山陰中央新報社に入社し、ふるさとで働く喜びに目覚める。報道記者として政治、医療、教育、地域づくり、定住・Uターンなど幅広い分野を担当。琉球新報社との合同企画「環(めぐり)の海-竹島と尖閣」で2013年日本新聞協会賞受賞。2014年秋、同社を退職して独立、島根を拠点に活動している。

著書に『関係人口をつくる-定住でも交流でもないローカルイノベーション』(木楽舎)『ローカル鉄道という希望-新しい地域再生、はじまる』(河出書房新社、第42回交通図書賞奨励賞)『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』(ハーベスト出版、第29回地方出版文化功労賞)など。

2017年大阪大学人間科学研究科修士課程修了。一般社団法人日本ジャーナリスト教育センター(JCEJ)の運営委員も務める。



8月20日(月) 10:00~12:00 (受付9:30~)

茨城県庁 9階講堂 水戸市笠原町978-6

人口減少時代を迎えた日本。いま地方都市では、過疎化や少子高齢化が進み、全国の地方自治体が移住・定住に力を入れている。でもよく考えてみると、どこかの定住人口が増えれば、結局どこかが減ることになるのではないかと。実は、人口が減ることなく“増えるばかり”で、**地域を元気にできる「第三の人口」**がある。

それは、住んでいなくても継続的に特定の地域に関わる人を指す「**関係人口**」だ。この関係人口の存在が日本の地方をおもしろくし、社会をよくしていくヒントになるのではないだろうか? 例えば、ひと月のうち一週間をどこかの地域で過ごして自分の商いをはじめたり、東京で地域のおいしいものを食べる会を開いたり……。これからの地方、そして日本の未来をよりよくしていくかもしれない「**関係人口**」という考え方。“過疎最先端”の島根を舞台にした、最先端の地域との関わり方、学んでみませんか。(本書紹介HPより)

茨城県自治研修所